

建築士法第23条の6の規定による  
設計等の業務に関する報告書

(第一面)

建築士法第23条の6の規定により、設計等の業務に関する報告書を提出します。この報告書の記載事項は事実に相違ありません。

大分県知事 殿

令和 〇〇年 〇〇月 〇〇日

一級  
二級 建築士事務所 大分県知事登録 第12-3456号  
木造

建築士事務所名称 大分県株式会社〇〇建築士事務所

所在地 大分県大分市大手町〇丁目〇番〇号

電話 097-△△△-×××× 番

建築士事務所の開設者の氏名又は名称

大分県株式会社

代表取締役 大分 太郎

(今回提出する報告書)

事業開始年月日 令和 2年 10月 1日 から

事業終了年月日 令和 3年 9月 30日 まで

(決算日)

※この記入例は、事業年度が  
10月1日～9月30日の法人  
を想定しています。

[記入注意] 建築士事務所の開設者が法人である場合には、法人の代表者の氏名も併せて記載すること。

ポイント

- ① 毎事業年度の経過後、3ヶ月以内に提出しなければなりません。
- ② 個人の事業年度は、1月～12月(暦年)です。
- ③ 建築士法第24条の6の規定による閲覧に供する書類と内容を整合させてください。

(第二面)

## 建築士事務所の業務の実績

〔記入注意〕

1 当該事業年度における直近のものから順次記入してください。

2 〔例〕  
大分県 共同住宅 鉄筋コンクリート造 設計及び  
五階建延 700 m<sup>2</sup> 工事監理 令和 1. 2. 1  
2. 10. 3

建築物所在地都道府県	建築物の用途	構造及び規模	業務内容	期 間
大分県	共同住宅	鉄筋コンクリート造 9階建 4500 m <sup>2</sup>	設計及び 手続の代理	H21.5.1～ 継続中
大分県	住宅	木造 2階建 190 m <sup>2</sup>	設計及び 工事監理	H20.11.1～ H21.4.20
大分県	倉庫	鉄骨造 平家建 1000 m <sup>2</sup>	構造設計	H20.10.1～ H20.12.10
<p>ポイント</p> <p>① 事業年度内に行ったもの全てについて、直近のものから記入してください。ただし、継続中のものは、期間欄に「R2.5.1～継続中」のように記入してください。</p> <p>② 1枚に収まらない場合は、複数枚にわたって全ての業務について記入してください。</p> <p>③ 記入すべき業務範囲は、建築士事務所として受託契約をした「建築物の設計」、「工事監理」、及び建築士法第21条に定める「その他の業務」(建築工事契約に関する業務、建物調査、関係法令の手続きの代理等)です。</p> <p>※施工図を描いたり、「施工」のみの場合は、建築士事務所としての業にあたらなため、記入しないでください。</p> <p>④ 該当する業務実績がない場合は、「該当無し」と記入してください。</p>				

### 所属建築士名簿

氏名	一級建築士、二級建築士又は木造建築士並びに管理建築士である場合にあつては、その旨	登録番号	登録を受けた都道府県名(二級建築士又は木造建築士の場合)	建築士法第22条の2第1号から第3号までに定めるうち直近のものを受けた年月日	構造設計一級建築士又は設備設計一級建築士である場合は、その旨	構造設計一級建築士証又は設備設計一級建築士証の交付番号	建築士法第22条の2第4号及び第5号に定めるうち直近のものを受けた年月日
別府 五郎	一級建築士 (管理建築士)	〇〇〇〇〇		〇年〇月〇日			
中津 三郎	一級建築士	△△△△△		△年△月△日	構造設計一級 建築士	〇〇〇〇	△年△月△日
日田 次郎	二級建築士	□□□□□	大分県	□年□月□日			

#### ポイント

- ① 管理建築士であることがわかるように記入してください。
- ② 所属建築士を全員記入してください。年度途中で退職された方については、氏名の下に「(〇月退職)」等と記入してください。
- ③ 建築士の資格を取得していても、経営や施工等に専念し、所属建築士として設計等を行わない方については、記入しないでください。
- ④ 建築士事務所登録の内容と整合が必要です。  
(所属建築士に変更がある場合は、最新の情報を記入してください。)
- ⑤ 建築士法第22条の2の規定による定期講習の受講日を記入してください。
- ⑥ 構造/設備設計一級建築士である方は、交付番号及び定期講習の受講日も記入してください。

			一級建築士	2名			
			二級建築士	1名			
			木造建築士	名			
			構造設計一級建築士	1名			
			設備設計一級建築士	名			
		計	3名				

(第四面)

## 所属建築士の業務の実績

〔記入注意〕

1 所属建築士の当該事業年度における業務の実績を、当該建築士事務所におけるものに限って、直近のものから順次記入してください。

2 〔例〕

大分 太郎

大分県

共同住宅

鉄筋コンクリート造  
五階建延 700 m<sup>2</sup>

設計及び  
工事監理

令和 1.2.1  
2.10.3

所属建築士の氏名	建築物所在地都道府県	建築物の用途	構造及び規模	業務内容	期 間
別府 五郎	大分県	共同住宅	鉄筋コンクリート造 9階建 4500 m <sup>2</sup>	設計及び 手続の代理	H21.5.1～ 継続中
	大分県	住宅	木造 2階建 190 m <sup>2</sup>	設計及び 工事監理	H20.11.1～ H21.4.20
中津 三郎	大分県	共同住宅	鉄筋コンクリート造 9階建 4500 m <sup>2</sup>	設計及び 手続の代理	H21.5.1～ 継続中
	大分県	倉庫	鉄骨造 平家建 1000 m <sup>2</sup>	構造設計	H20.10.1～ H20.12.10
日田 次郎	大分県	住宅	木造 2階建 190 m <sup>2</sup>	設計及び 工事監理	H20.11.1～ H21.4.20
<p>ポイント</p> <p>① 『建築士事務所の業務の実績』に記入された業務を、所属建築士ごとに記入してください。 ※当該建築士事務所における業務に限ります。</p> <p>② 確認申請図書に記名している建築士については、その業務実績についての記載が必要です。</p> <p>③ 年度途中で退職された所属建築士についても、実績があれば記入してください。</p> <p>④ 該当する業務実績がない場合は、「該当なし」と記入してください。</p>					

## 管理建築士による意見の概要

[記入注意]

当該事業年度における直近のものから順次記入してください。

管理建築士の氏名	建築士事務所の開設者に対して述べられた意見の概要	当該意見が述べられた日
別府 五郎	設計業務の期間について、適切に確保するよう助言した。また、継続している物件とのスケジュールを勘案し、再委託する業務範囲について検討し、助言した。	R3.4.20
<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"><p>ポイント</p><p>① 建築士法第24条第3項の規定に基づき、管理建築士から開設者に対して述べられた意見の概要を記入してください。</p><p>② 該当する意見がない場合及び開設者が管理建築士を兼ねる場合は、「管理建築士の氏名」「該当なし」と記入してください。</p></div>		